

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2022. 9
No.349

イナテック中長期計画の見直し

イナテックの来年度の方針作成と合わせ、中長期計画の見直しをする時期でもありません。そんな中で楠木建著の『絶対悲観主義』を読んで感じたことや、抜粋も含めて中長期の考え方の一助として記してみました。

組織を悲観し、チームを楽観する

『絶対悲観主義』楠木建 著より

「うちの会社は駄目だ」とか「組織の仕組みがなってない」とか、やたらと組織についての愚痴を言う人がいます。

どこの会社もそういうもので、「うちの組織や仕組みは最高です！」と言う人はあまりい

ません。会社が悪いのであれば、転職すればいいだけです。

仕事の現場では、日々の仕事をするチームが動いています。会社全体の組織を云々する前に自分たちのチームを良くするのが先決です。組織全体のあり方はすぐにはどうにもなりません。それでも仕事の現場で動く自分のチームについては、今すぐに変えられることが多々あるはずですよ。

現状に問題を感じ、変革を起こしたければ、問題を組織の構造や制度にすり替えないことが大切です。

新しい制度設計を待たず、まず自ら動く。とりあえずは、自分の影響の及ぶチームに新しい動きを起こし、明らかな成功例をつくる。組織の他の人々に成果が見えれば、賛同する人が出てきます。

イナテックも、ややもすると組織の話や他人事のような議論をしているところが散見されます。

「まず自ら動く」
これで行こうではありませんか。

中長期計画策定にあたり 痺れる名言

アンドリュース・カーネギー

「笑い声のないところに成功はない」

ヘミングウェイ

「心の底からやりたいと思わないなら、やめておけ」

ゴッホ

「美しい景色を探すな。景色の中に美しいものを見つけるんだ」

織田信長

「攻撃を一点に集約せよ。無駄なことはするな」

ヘンリーフォード

「自分で薪を割れ。二重に温まる」

ドラッカー

「元々やらなくてもいいことを効率良く行うことほど、無駄なことはない」

ネット社会にどう対応するのか

私自身はゲームやスマホなど最小限しか使わないのですが、この爆発的に広まったSNSやYouTubeなど、良い効果と良くない影響や危険性が自分の中では整理できていませんでした。偶然本屋で見つけたのが『デジタル依存症の罠』精神科医 香山リカ著 でした。私の心象に残った一部を紹介します。

自己有用感の功罪

『デジタル依存症の罠』香山リカ 著より

いま教育現場では、自分は誰かあるいは社会の役に立っていることで培われている自己肯定感を「自己有用感」と呼び、それを育むことに力が入れられている。

「自分さえよければそれでいい」という身勝手な自己正当化ではなくて、他人から認められてはじめて「これでいいんだ」と自分を肯定するというのは大切なこと。

ネットに触れてその情報空間の広大さに触れた子どもたちは、社会や世界、あるいはまわりの人たちに有用と思われている人たちの多さを知り、めまいにも似た感覚を味わう。「ぼくなんか、親が期待する高校にも行けそうにないし、学校の部活でもいい成績を上げられないし、誰の役にも立っていない。誰にとつてもいらぬ人間なんです」

「自分が好きでやってるなら、それでいいじゃない」と言葉をかけると、「毎日、ある人の動画を見ているんですけど、その人は何十万人もの人を楽しいネタを提供して喜ばれてる。それなのにぼくは、身近な親や先生を喜ばせることもできないんです」

「こどもも、比較対象が莫大に増えたことが、この子どもに「自分なんて取るに足らない存在」という意識を植えつけているのだ。

ネットの世界で傷つけないために

ICT抜きにはこれからの世の中、生活も教育も成り立たないのは事実だ。「ネットは危険だから、子どもには触れさせないようにし

よう」というのは、もはやナンセンスでしかない。

情報化社会の中で子どもは知らないあいだに自分を誰かと比べて自己愛の傷つきを感じている。その一方で「このままの自分じゃない。もっと夢を持とう。理想を高くしよう」と万能感を煽られてはいないか。

子どもはやはり、目の前の大人である教師に「よくがんばったね」「この前の試合、すごい活躍だったじゃない」「この絵、うまく描けてるね」「いつも友達にやさしい言葉をかけてあげてくれてありがとう」などとほめられるのを待っている。

大きな目標を達成していなくても、小さな日々のがんばりに気づいてもらえて、「よくやってるじゃない」と言われることが、広大なネットの世界でうつすらと傷つけられかけている自己愛をやさしく修復してくれるだろう。

※ICT(情報通信技術) || Information and Communication Technology

このように考えると、イナテックの理念である「フェイスとフェイス」「ハートとハート」は大変重要で有効な手段であることが分かります。

ネットの世界だけでなく、今のイナテックの社内でも同じことが言えます。

私も現在の厳しい経営状況が続く中、社員の皆さんの日々の努力、頑張りに対しての労いと感謝の気持ち、励ましの言葉をおろそかにしていることに気づき反省しています。

皆さんも胸を張って、自信を持って、気持ちよく前向きに頑張りましょう。

菜根譚後集

八〇

烈士讓千乘、貪夫爭一文。人品星淵也、而好名、不殊好利。天子管家國、乞人號羹飧。位分霄壤也、而焦思、何異焦聲。

義烈の士は千乗の国をも辞退するが、強欲な男は鏹一文をも求め争う。両者の人からは天上の星と地下のふちほどのへだたりはあるが、しかし前者は名声を好み、後者は利を好むものであって、好み求める点については少しも相違がない。また、天子は国家を治めるが、乞食は食べ物をねだって叫ぶ。両者の地位は青空と地上ほどのへだたりはあるが、しかし前者は天下万民のために心を苦しめ、後者は自分一人のために声を枯らすものであって、思い悩む点については少しも相違がない。

- 3 -
